

「子どもには自己肯定感を持たせるべき」は、思い込み。

― 善意に潜む教育の罠と、指導者の死角 ―

Gemini Notebook

誰もが信じる「善」の危うさ

「子どもには自己肯定感を持たせるべきだ」
そう信じて疑わない親や指導者は少なくありません。

しかし、私たちは本当にその「結果」まで理解して
いるのでしょうか？

> 自己肯定感を持たせた結果、
> その子の人生がどう変わるのか？
>
> その変化は本当に望ましいものなのか？

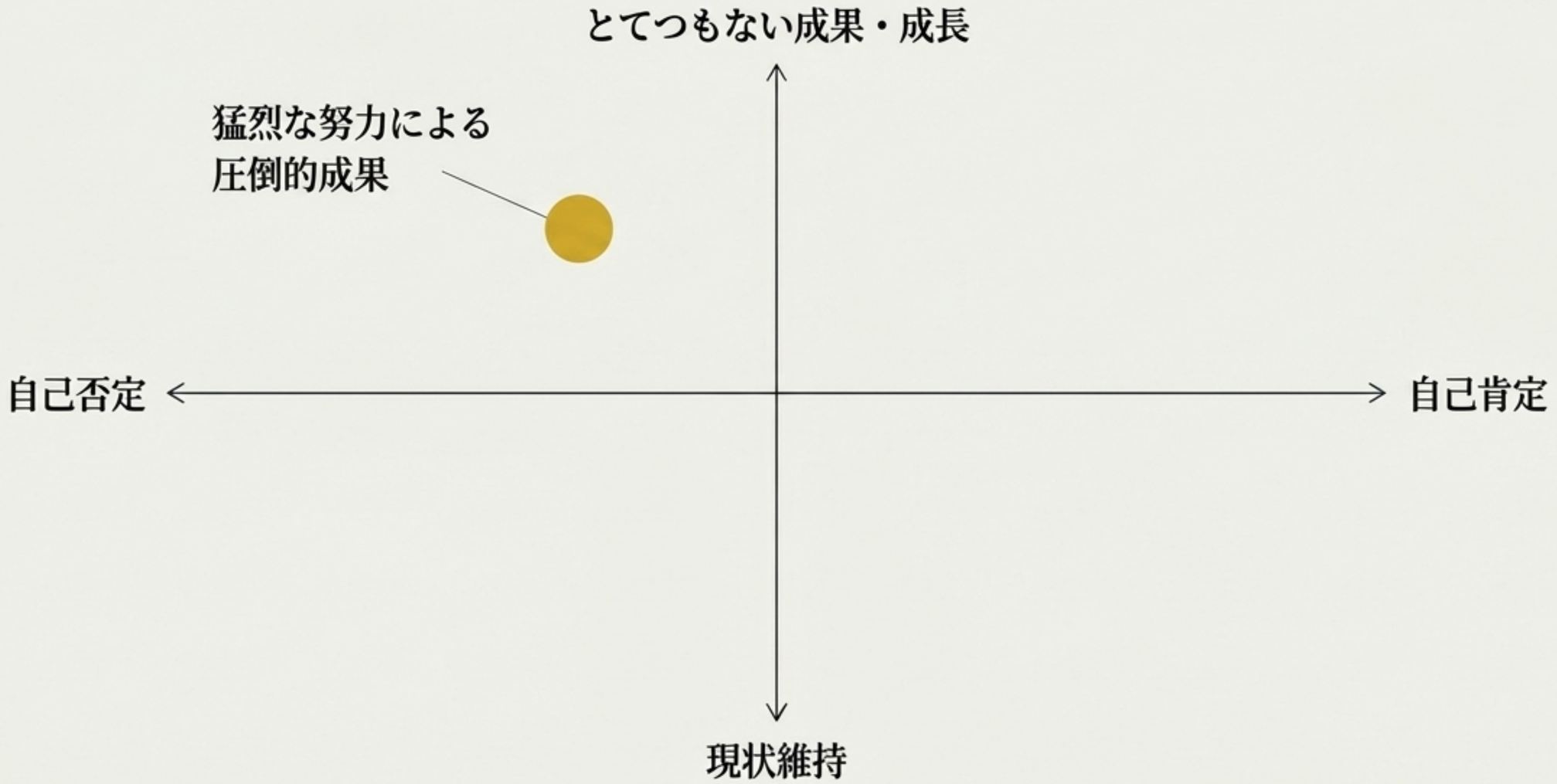
答えを持たないまま、私たちはなぜそれを
「絶対的な善」として断言できるのでしょうか。



Gemini Notebook

自己肯定感だけが「成長の原動力」ではない

そもそも、「成長すること」自体が常に「善」であると、誰が言い切れるのでしょうか？

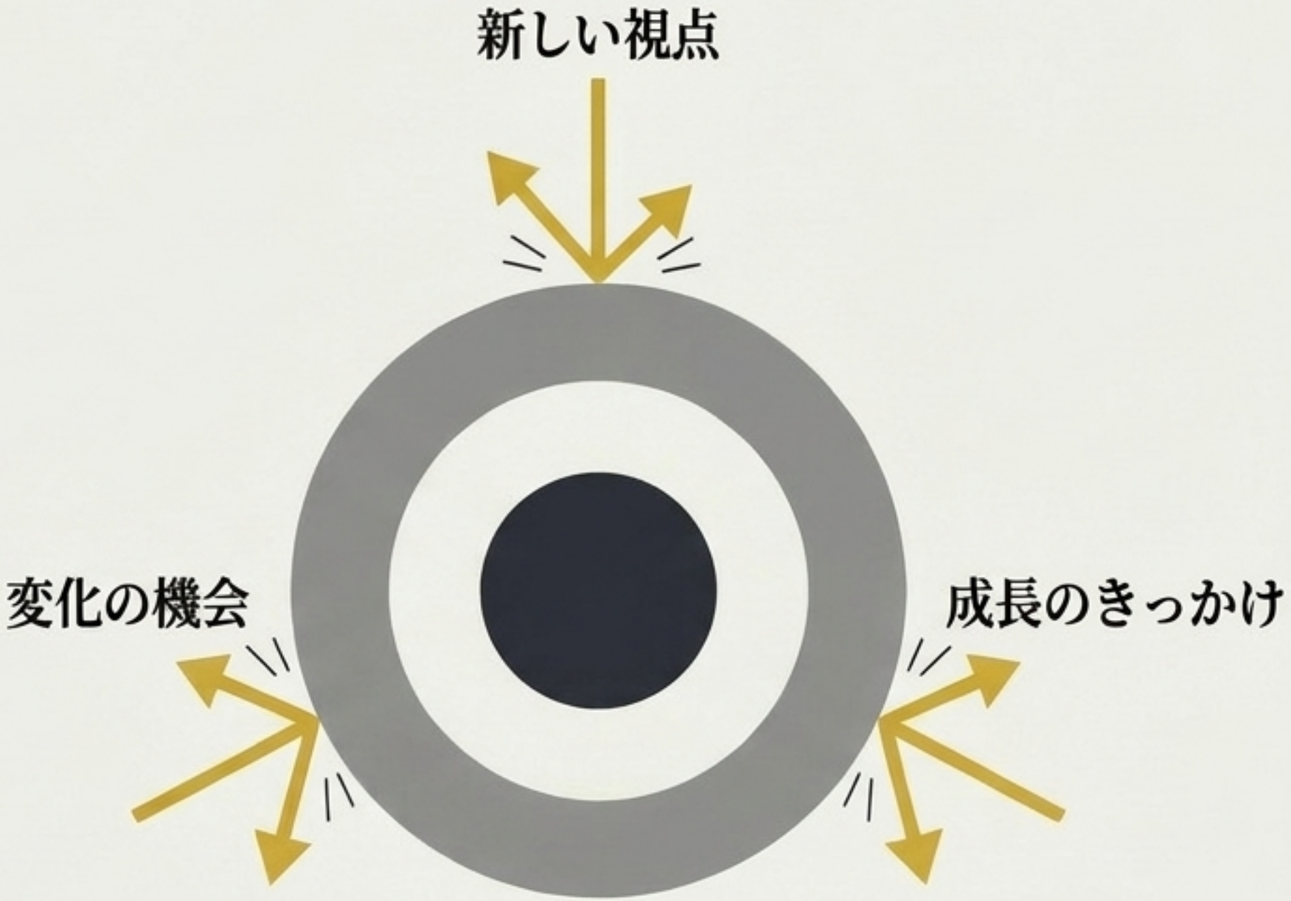


Gemini Notebook

「ありのままでいい」という勘違いの代償

自己肯定感を「自分は間違っていない」
「ありのままでいい」と誤訳してしまうこと。

その強い思い込みは、
「自分を変える機会の剥奪」と
「頑固さの育成」にすり替わる
危険性を孕んでいます。



※私は自己肯定を否定しているわけではありません。
　完全肯定もしていない。ただ、それだけのことです。

Gemini Notebook

指導者が陥る最大の皮肉

「自己肯定感を持たせるべき」という自分の考えを、
肯定しすぎているのではないか？

自分の正しさをまったく疑えない大人が、
子どもに向かって「何が正しいか」を教えようとしている。
なんとも皮肉な話です。



指導者自身の死角

Gemini Notebook

「子どものため」という魔法の言葉が暴走するプロセス

「子どものため」という善意は、その教育方針が正しいことの証明にはなりません。
善意で教えているからこそ、自分の正しさを疑わなくなってしまうのです。

純粋な善意

「子どもには自己肯定感が必要だ」

正当化の魔法

「これは子どものためだから正しい」

疑いの喪失

自分の教育観への盲信（他の視点の排除）

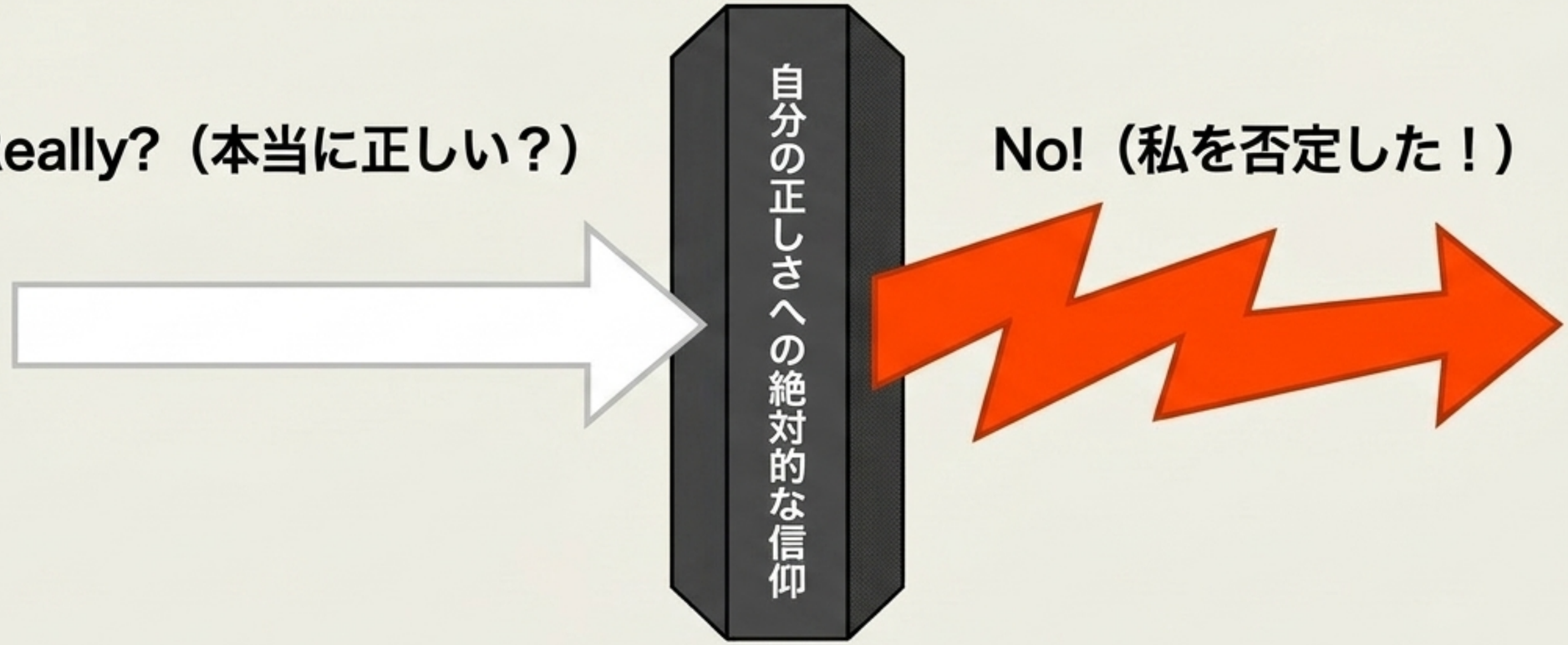
押し付けへの変貌

教育が「支援」から「強要」へ堕ちる瞬間

Gemini Notebook

自分の正しさを信じすぎることで起きる「認知の歪み」

自分の正しさを信じすぎるあまり、「本当に正しいのか？」という【疑問】と、「それは間違っている！」という【否定】の区別さえつかなくなっているのです。



Gemini Notebook

「次の正解」を探すこと自体が、新たな押し付けを生む

「では、自己肯定感を疑うなら、
代わりに何を育てるべきか？」

私たちは無意識のうちに、
新しい教育目標（正解）を探してしまいます。
しかし、それでは単に別の「べき」を
子どもに押し付けるだけです。

正解を疑う話をしているのに、
気づけば次の正解を探してしまう。
これが思い込みの最も深い罠です。



Gemini Notebook

あなたの教育は「支援」か、それとも「押し付け」か

子どもを大切に思うことと、子どもにとって何が最善かを知っていることは、まったく違います。
指導者のスタンスを分かつ決定的な違いは、「疑い」の有無にあります。

	【押し付け】	【支援】
前提の認識	自分は子どもにとっての「正解」を知っている。	自分に見えているものは「思い込み」かもしれないと疑う。
問いへの反応	「疑問」を投げかけられると「否定された」と反発する。	「疑問」を、より深い対話とアップデートの糸口とする。
結果のベクトル	子どもを大人の価値観（型）に当てはめる。	正解を手放し、子ども自身の無限の可能性を開く。

Gemini Notebook

子どもの可能性を狭める「本当の正体」

子どもの可能性を狭めているのは、
子どもの「自己肯定感の低さ」ではありません。

大人が自分の教育観を「絶対視」することです。

大人の絶対的な教育観



Gemini Notebook

子どもの人生を決めつける前に。まず疑うべきは、
自分が固く握りしめている「正解」ではないだろうか。

Gemini Notebook

技術だけでなく、
指導者自身のアップデートを怠らない。
それが、私たちの教育哲学です。

PHOENIX愛知（豊田市・岡崎市近郊 バドミントン教室）
バドミントンの技術指導を超えて、指導者自身が常に己の思い込みを疑い、
子どもたちにとっての真の「支援」を探求し続けています。

https://phoenix-aichi.net/

[体験レッスン・詳細はこちら]

Gemini Notebook